

おりひめちゃんが行く！

交野戦国絵巻 十の巻

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

獅子窟寺と戦国時代

獅子窟寺(左写真)は真言宗の寺院で、獅子がほえたときの口の形に似ていることから名付けられた「獅子窟」(写真①)などの巨岩が信仰を集め、古くから僧侶の修行の場として栄えました。最盛期には12の塔頭(「〓院」「〓庵」といった小院)が私市の山中に広がっていました。



獅子窟寺は、戦国時代の終わりにまでその威容を維持していましたが、慶長20年(1615年)の大坂夏の陣で、豊臣方への加勢を断つたため、寺を焼かれたと伝えられています。その際の損害は大きく、塔頭を含めた全ての建物が失われました。

戦乱で交野の寺院の多くが損壊していた中、江戸時代になると、獅子窟寺はいち早く復興を遂げました。具原益軒の旅行記「南遊紀行」や、江戸時代の観光ガイドブック「河内名所図会」にも登場します。また、私市の松宝寺は、復興した獅子窟寺の塔頭の一つとして引き継がれています。

現在は仁王門の基礎(写真



①獅子窟



②仁王門跡



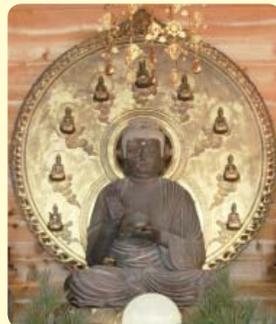
③石碑

②)や鐘楼堂の跡から、戦乱以前の壮大な姿をうかがうことができそうです。また、獅子窟の前にある、大日如来の真言「アピラウンケン」が刻まれた石碑(写真③)は、永禄6年(1563年)に建てられた物で、古くから続く獅子窟寺の歴史が感じられます。



薬師如来坐像(国宝)

獅子窟寺の本尊である薬師如来坐像は、平安時代初め頃の作です。弘仁期に発達した翻波様式と呼ばれる、鋭く深く彫った大小の波のような衣文と、藤原期の穏やかな面相が共存しています。現在、大阪にある国宝に指定された仏像の4体のうちの1つです。



おりひめちゃんの歴史コラム

特別無料公開

とき 1月1日(祝)～3日(土) 午前9時～午後4時

※自動車ではお越しいただけません。

※上記以外の日に見学するには事前予約が必要です。

問い合わせ 獅子窟寺(TEL 891・6693)



広報かたの編集と発行

No.752

交野市役所総務部情報課 〒576-8501 大阪府交野市私部1丁目1番1号
TEL 072・892・0121 FAX 072・891・5046 テレホンサービス 072・892・1599

発行：2015年1月1日